

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																				
東海医療科学専門学校		平成19年3月16日	藪本恭明		〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南2丁目7番2号 (電話) 052-588-2977																				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																				
学校法人セムイ学園		平成4年4月1日	野村斉史		〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南2丁目7番2号 (電話) 052-551-1233																				
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																			
医療	医療専門課程	作業療法科			平成20年文部科学省 告示第11号																				
学科の目的	本学科は教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、医療に関する職業教育を実践し、社会に貢献しうる有能な作業療法士を養成することを目的とする																								
認定年月日	平成27年2月17日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
	3年							3135時間	1650時間	300時間	1185時間	0時間	0時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
120人	118人	0人	6人	26人	32人																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績審査は、科目試験・卒業試験及び平素の成績、性行を斟酌して行う。成績評価の基準:優:80点以上、良:70～80点未満、可:60～70点未満、不可(不合格):60点未満																				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月9日～8月31日 ■冬季:12月28日～1月8日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	・進級の認定基準 各学年時に行われた全ての授業科目を履修した者は進級判定会議の議を経て、校長がこれを決定する。 ・卒業の認定基準 各学科とも規定の修業年限以上在学し、各科学科別表(別表)の授業科目を履修し卒業試験を受験した者は、卒業判定会議において、卒業試験の合格と全ての授業科目の単位の修得が確認され、卒業の可否が判定されれば、校長がこれを決定する。																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任及び学科教員が本人、保護者に連絡し、面談を行うなどして対応している			課外活動	■課外活動の種類 有料老人ホーム・精神科病院・老人保健施設での夏祭り、病院・施設の祭り、クリスマスなどのボランティア参加 ■サークル活動: 無																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成31年度卒業生) 病院、診療所、福祉施設 ■就職指導内容 担任及び学科教員が本人、保護者に連絡し、面談を行うなどして対応している			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																				
	<table border="1"> <tr> <td>資格・検定名</td> <td>種</td> <td>受験者数</td> <td>合格者数</td> </tr> <tr> <td>作業療法士国家試験受験資格</td> <td>②</td> <td>29人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	作業療法士国家試験受験資格	②	29人	28人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
作業療法士国家試験受験資格	②	29人	28人																						
0	0	0	0																						
0	0	0	0																						
0	0	0	0																						
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者114名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者113名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 進路変更、体調不良、精神面の理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生相談、教育学部と連携して問題を抱える学生の早期発見とフォロー方策を取っている			■中途退学率 0.9%																					
	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ひとり親家庭奨学金: 学園が定める所得基準未満を対象に、入学後、在学年度ごと10万円の支給(給付型)。利子補給奨学金: 教育ローン利用者で、学園が定める所得基準未満を対象に納入された学費に対する利子を奨学金として支給(給付型)、上限年6万円、金利上限3.5% ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) 平成29年3月31日認定 一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 期間 平成29年4月1日～令和4年3月31日																								
当該学科のホームページURL	http://www.tokai-med.ac.jp/kagaku/																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基
職業に必要な実践的かつ専門的な能力及び臨床現場において即戦力となる能力を育成するため、病院、福祉施設、業
界団体等との密接な連携を通じ、実践的な専門教育の確保に組織的に取り組み、病院等からの要望、意見を活用し、
学校が主体的に教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はセムイ学園運営指針において校長レベルの委員会に位置付けられている。教育課程の編成は
先ず、学科教員の起案により学科会議で協議した結果を教育編成委員会で審議し校長が決裁する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
藪本 恭明	東海医療科学専門学校 校長	R2.8.1～R4.7.31	
大竹 有二	東海医療科学専門学校 校長代理	R2.9.1～R4.9.31	
田中 敏彦	東海医療科学専門学校 作業療法科	R1.10.1～ R3.9.30	
中村 新一	東海医療科学専門学校 臨床工学科	R1.10.1～ R3.9.30	
浅野 美子	東海医療科学専門学校 臨床工学科	R1.10.1～ R3.9.30	
奥地 伸城	東海医療科学専門学校 理学療法科	R1.10.1～ R3.9.30	
辻 智之	東海医療科学専門学校 理学療法科	R1.10.1～ R3.9.30	
角本 裕之進	東海医療科学専門学校 作業療法科	R1.10.1～ R3.9.30	
鬼頭 宏	東海医療科学専門学校 柔道整復学科	R1.10.1～ R3.9.30	
北村 次郎	東海医療科学専門学校 柔道整復学科	R1.10.1～ R3.9.30	
小林 二成	東海医療科学専門学校 言語聴覚科	R1.10.1～ R3.9.30	
大内田 潤子	東海医療科学専門学校 言語聴覚科	R1.10.1～ R3.9.30	
高山 久志	東海医療科学専門学校 社会福祉科(昼間課程)	R1.10.1～ R3.9.30	
檜垣 道隆	東海医療科学専門学校 社会福祉科(昼間課程)	R1.10.1～ R3.9.30	
伊原 正	鈴鹿医療科学大学	R3.9.1～R5.8.31	①
皆川 和也	独立行政法人 地域医療機能推進機構	R3.5.1～R5.4.30	③
伊井友昭	医療法人有心配 大幸砂田橋クリニック	R3.5.1～R5.4.30	③
熊澤 輝人	愛知県理学療法士会	R3.5.1～R5.4.30	①
星野 茂	蒲郡市民病院 リハビリテーション科	R1.10.1～R3.9.30	③
稲垣 毅	愛知県作業療法士会	R1.10.1～R3.9.30	①
奥川 慎二	社会福祉法人杏嶺会 一宮医療療育センター リハビリテーション科	R2.9.1～R4.8.31	③
小林 弘治	公益社団法人愛知県柔道整復師会	R3.9.1～R5.8.31	①
西堀 敦則	高見接骨院	R2.9.1～R4.8.31	③
平井 俊隆	理研産業株式会社	R1.10.1～R3.9.30	③
高橋 知己	一般社団法人愛知県社会福祉会	R2.9.1～R4.8.31	①
男武 正基	社会福祉法人名張育成会 ワークプレイス葉	R2.9.1～R4.8.31	③
鈴木 俊夫	一般社団法人日本口腔ケア学会	R3.9.1～R5.8.31	②

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

22回以上開催(9月と9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年9月12日 17:00～18:20

第2回 令和3年2月6日 17:00～18:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

感染拡大による影響から学内実習を行うことになったが委員会の意見に基づき、①作業療法士として報酬を受け取るという自覚を促すこと。②人生の中で「学習し続けなければならない」という心構えをさせること。③学ぶ必要性を教えること。④社会人としての心構えを促すこと。以上4点を取り入れ、作業療法士として研鑽しようとする意欲を引き出せるような実習内容を検討している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

厚生労働省の定める臨床実習施設の要件にあった施設・病院であって、実習の受け入れ実績のある施設や、リハビリテーション関連企業から当該企業に所属する実務経験5年以上の者を講師として派遣し、校内の教室、設備等を活用した指導などの協力を得られる企業等を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

病院等の講師が事前に担当教員と打ち合わせを行い、実習の内容、学修成果の達成度評価指標等について定める。病院等の講師の臨床的な視点で授業を展開する。授業終了後に担当教員と意見交換をし、他の授業との関連性や学生理解度などを確認し、生徒の学習状況によっては学習支援をする。実習終了時には講師による生徒の学修結果の評価を踏まえ担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
義肢装具学	上肢装具の採型、採寸を通して三点支持の原理とアライメントの重要性を理解する。また、切断肢のソフトドレッシングの方法を学び術後訓練に必要な知識と技能を習得する。	有限会社 ワールドブレース
地域リハビリテーション学	地域医療の理念・制度・実践などを地域福祉システムとして歴史的、国際的に理解する。	サンライトガーデン株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園が定める教員研修規程に基づき、作業療法士の臨床現場の最新の知識及び技術・技能の修得と生徒に対する指導力の向上を方針とし、企業等との連携により、組織的な研修を行っている。また、教員の専門知識、技術の向上のために作業療法学に関する学会、研究会や作業療法士会等の研修会への参加を促している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:令和2年度 あいち精神科OT勉強会

連携企業等:あいち精神科OT勉強会

期間:令和2年10月21日、11月18日

対象:初任者・新規採用者、教職5年以上経験者

内容:精神障害者スポーツの効果についてグループセッションを通じて学ぶ(10/21)

精神障害と地域包括ケアシステムについて(11/18)

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:臨床実習指導者講習会

連携企業等:厚生労働省、全国リハビリテーション学校協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会

期間:R2年10月3日～4日

対象:初任者・新規採用者、教職5年以上経験者

内容:臨床実習における学生の指導方法や教授方法についての知識・技術を講義、グループセッションを通じて学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:第48回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会

連携企業等:厚生労働省および(公財)医療研修推進財団

期間:令和3年8月16日(月)～令和3年9月4日(土)

対象:初任者・新規採用者、教職5年以上経験者

内容:現在養成校の教員として勤務している者に対してより高度な技能と知識を習得させ、リハビリテーションの質の向上に資するための教育についての研修。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「学校法人セムイ学園 新人研修(FD)」(連携企業等:株式会社 学び)

期間:令和3年5月15日(土) 対象:初任者・新規採用者・教職5年以上経験者

内容:有為な医療・福祉従事者を育てる教員が年齢も学力も多様な学生を対象に「学生を理解し教える技術」を高め更なる能力アップを図る。

研修名:専修学校・各種学校教員資格取得講習会

連携企業等:一般社団法人職業教育・キャリア教育財団愛知県支部

愛知県私立専修学校各種学校教員資格認定委員会

期間:6/19(土)、7/3(土)、7/10(土)、9/4(土)、9/25(土)、10/16(土)

対象:初任者・新規採用者、教職5年以上経験者

内容:専修学校教員として教育理論、職業教育、授業実践の知識・技術を学ぶ。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の客観性を高めるとともに、教職員と学校関係者が学校運営の現状と課題について共通理解を持ち協力することによって、教育活動その他学校運営の改善が適切に行われるようにすることを目的として学校関係者評価を実施することを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1.学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか 2.理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか 3.理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか 4.理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか
(2) 学校運営	1.人事、給与に関する規程等は整備されているか。 2.学校の目的・目標を達成するための事業計画が定められており、学校は事業計画に沿って運営されているか 3.運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 4.教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 5.情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	1.教育目標・育成人材像は明確になっているか 2.職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 3.教育課程は、適切に編成されているか(体系的) 4.各科目はカリキュラムの中で適当な位置付けをされているか 5.成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 6.進級、卒業の基準は明確になっているか 7.教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか 8.授業評価の実施・評価体制はあるか 9.授業評価が授業改善に活かされているか 10.国家試験等の指導体制は確立されているか

(4)学修成果	1.就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 2.中退率の低減が図られているか 3.国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか
(5)学生支援	1.進路・就職に関する支援体制は整備されているか。 2.父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合) 3.卒業生への支援体制はあるか 4.学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか
(6)教育環境	1.設備、機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 2.防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	1.高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか 2.学生募集活動は、適正に行われているか 3.学生募集において資格取得、就職状況等の情報は正確に伝えられているか 4.学生納付金は妥当なものとなっているか
(8)財務	1.中長期的に学校の財務基盤は安定しているか 2.予算・収支計画は有効かつ妥当なものか 3.財務について会計監査が適正に行われているか
(9)法令等の遵守	1.法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 2.自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 3.個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10)社会貢献・地域貢献	1.学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 2.学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

1. 教育活動

今後、学生数の減少や感染症による学生募集の在り方の変容を見越し、御校の「アイデンティティ・オリジナリティ」を感じられるような活動があれば良いとの意見に基づき、他校と差別化できるブランディング事業計画を推進するために、組織化し、年次計画とともに推進している。また、医療従事者を育成するという「本校の理念」・「誇り」・「責任」を再認識させており、職員間のグループワーク(学科・担当部署を超えたグループで)を検討している。

2. 学修成果

卒業後に就職活動をしている学生についても就職状況の把握が必要であるとの意見に基づき、対応が必要との意見に基づき卒業生との連絡方法を構築し、就職状況の報告を義務付け、追跡調査を行っている。

3. 学生の募集と受け入れ

安易な考えで(卒業すれば資格がもらえる等)入学する生徒も見受けられるため、就学意欲の高い学生の選抜が必要との意見に基づき、オープンキャンパス等での情報提供によりで職業理解を深めていただくとともに、入学試験では面接において志望理由や職業理解度を問うことにより、志願者が安易な進路選択をしていないか確認し、学生の質向上に努めている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
齋藤友久	医療法人仁聖会 碧南クリニック	R3.9.1～R6.8.31	卒業生父兄
林屋裕二	株式会社メディカルサポートクリエイション	R3.9.1～R6.8.31	卒業生父兄
山田賢太郎	医療法人愛誠会 ゆりクリニック名古屋東	R3.9.1～R6.8.31	企業等委員 卒業生
熊澤輝人	愛知県理学療法士会	R3.9.1～R6.8.31	企業等委員
富田彰	医療法人羊蹄会 ようてい健康増進クリニック	R3.9.1～R6.8.31	企業等委員 卒業生

内山貴博	医療法人並木会 並木病院	R3.9.1～R6.8.31	企業等委員 卒業生
加納崇希	わかたデイサービス	R3.9.1～R6.8.31	企業等委員 卒業生
男武正基	社会福祉法人名張育成会 ワークプレイス葉	R3.9.1～R6.8.31	企業等委員 卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

<p>(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()) URL: https://www.tokai-med.ac.jp/kagaku/disclosure/ 公表時期: 令和3年7月30日</p>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本学の教育活動や学校運営の状況に関する情報提供として、学校自己点検評価及び学校関係者評価の結果及び今後の改善方策等を公表・説明を行い、企業等との協力体制を整え、連携を推進する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1.学校の教育方針、特色 2.学校の沿革、歴史 3.校長名、所在地、連絡先
(2)各学科等の教育	1.入学者に関する受け入れ方針、収容定員 2.カリキュラム 3.国家資格資格取得の実績
(3)教職員	1.教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	1.就職支援等への取組支援 2.臨床実習の取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	1.学校行事への取組状況 2.課外活動
(6)学生の生活支援	1.学生支援への取組状況(学生相談)
(7)学生納付金・修学支援	1.学生納付金の取扱 2.学内・学外奨学金制度
(8)学校の財務	1.事業活動収支計算書
(9)学校評価	1.学校自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

<p>(3)情報提供方法 ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()) URL: https://www.tokai-med.ac.jp/kagaku/disclosure/</p>

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法科) 令和3年度																
No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		令和3		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	日：令和2年7月	専任	兼任	
1	○			情報科学	コンピューターの基礎として、文書作成、表計算、スライド作成の技法を学び、併せて文章作成とプレゼンテーション技術を習得する。	1通	60	4	○			○			○	
2	○			統計学	統計処理の基礎なる集団の平均値・分散・標準偏差の意味と導出とを習得するとともに、いくつかの検定法によって、2つの集団の間に差が見られるかを調べる。	1後	15	1	○			○			○	
3	○			心理学	心理学の基礎的な概念を学び、対人援助を行う際の留意点を理解する。	1後	15	1	○			○			○	
4	○			教養学	東洋・西洋の幅広い文化を学ぶとともに、社会人としての一般的態度やマナーなどを学び、医療人として役立てる。	1前	15	1	○			○			○	
5	○			レクリエーション学Ⅰ	高齢者のための「レクリエーション・アクティビティ」を介しての機能回復と「演劇」を通しての感情表現について学ぶ	1通	30	2			○	○			○	
6	○			レクリエーション学Ⅱ	機能訓練以外にも介護予防・健康増進・肥満対策といった活動と共に、人生の質の向上を目指しての高齢者との関係作りができる活動を習得する。	2後	30	2		○	△	○		○	○	
7	○			英語Ⅰ	BesicEnglishで書かれている英文を読み、医療に従事する者が必要とする基本的な教養としての英語を学ぶことを主眼とする。	1前	15	1	○			○			○	
8	○			英語Ⅱ	基本的な身体構造についての英語を理解し、医学英語を習得することを目的としている	1前	15	1	○			○			○	
9	○			社会学	身近なコミュニケーションから、家族、地域、産業、さらに近代化、情報化、差別など、様々なものを扱い、いま私たちが生きている時代がどう流れて、どんな問題が現われているのかといった「見取り図」を考える。	1前	30	2	○			○			○	
10	○			国語学	文章の理解と作成方法の基礎を学び、適切な文章表現の技法を習得する。	1前	15	1	○			○		○		
11	○			美術学	美術学を通して「もの(対象物)」をよく「見る(観察)」など、描画技法の基礎を学び、作業の治療的活用についての理解を深める。	1後	15	1	○			○			○	

52	○		作業療法臨床研究Ⅰ	臨床実習Ⅱにおける症例報告を行い、検討する。	2後	30	2	○		○	○			
53	○		作業療法臨床研究Ⅱ	臨床実習Ⅲにおける症例報告を行い、検討する。	3通	90	6	○		○	○			
54	○		地域リハビリテーション学	地域医療の理念・制度・実践などを地域福祉システムとして歴史的、国際的に理解する。	2通	60	2	○	△	○	○	○	○	
55	○		生活環境学	車いす体験や住環境整備・対象者の生活環境の移り変わりについて学ぶ。	2前	30	1	○		○	○			
56	○		地域作業療法学	地域でさまざまな活動を行っている作業療法士の活動内容を中心に、さまざまな取り組みを紹介し、地域での作業療法の展開を理解する。	2前	30	1	○	△	○	○			
57	○		臨床実習Ⅰ	病院や施設において対象者の疾患・障害について知るとともに、作業療法士の業務を理解し、臨床における作業療法の基礎技術を学習する。	1通	45	1			○	○	○		
58	○		臨床実習Ⅱ	病院や施設において対象者の疾患・障害について知るとともに、評価技法・援助技術を体験し習得する。	2後	270	6			○	○	○		
59	○		臨床実習Ⅲ	病院や施設において対象者の疾患・障害について知るとともに、評価技法・援助技術を体験し習得し、問題点の抽出・焦点化・治療目標の設定・治療計画の立案・再評価という作業療法援助の一連の流れを体験し習得する。	3通	720	16			○	○	○		
合計					59科目	3135単位時間(117単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：科目試験及び卒業試験に合格する。		1学年の学期区分	2期
履修方法：定められたクラスで授業を受け履修する。		1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。